フローラ・カナガワ
JUN. 5. 1982
No. 12

神奈川県植物誌調査会ニュース 第12号

231 横浜市中区南仲通り 5-60 神奈川県立博物館内
神奈川県植物誌調査会（振替口座 横浜 5-10195）
045-201-0926

津久井渓谷で発見されたサガミニガナ、ホンパコンギクの芽生えも見られる。（高橋秀男撮影）

サガミニガナ

神奈川県のニガナ類Ixeris dentata には花びらが5～7個あるニガナが最もふつうで、ほかに丹沢山地の高所に花びらが8－11個あるハナニガナが分布する。津久井渓谷のサツキ自生地を調査した際、そのどちらにも当たらないニガナを見出した。生育地は溪流の水辺のあひるような所で、サツキ、ヤシャゼンマイ、ホンパコンギクなど溪畔に特有な植物群に混じって見られる。溪畔に生えるニガナには紀伊半島北山脈のドロニガナ、新潟県三面川流域のミオモテニガナ（未発表）が知られるが、それとも異なる。

茎は丈低く、基部で多数分枝し、高さ15－30 cm。
根葉は側面針形、殆ど全線で銑頭、細長く幅は6－12 mmあり、基部はだいに狭まって長柄となる。茎葉は線形で尾状銑尖。花弁は5－7個。果実は長さ3－3.2 mm。ふつうのニガナも近くにあるが、それは丈が高く、葉は幅広く、果実は長さ4－4.5 mmある。
いずれ観察をみて、記載したいと思っているが、とりあえずサガミニガナと新称し、県博の研究報告13号に発表しておいた。（高橋秀男）

Aはニガナの果実で長さ4－45 mm、Bはサガミニガナの果実で長さ3－3.2 mmある。1目盛は1 mm。（大場達之撮影）
相武植物調査資料 [1]

1. 横浜市南区のマハクワ

マハクワはマグワの海岸型であり葉は殆んど無毛，葉肉厚く，表面は強い光沢がある。他に海岸型のものとして豆杉の半島に生えるヘチマクワは葉に二重銅葉がある。先端はやや尖り延びる傾向があるので区別するようである。マハクワと考えられる一箇体が南区大橋町大井道黒川に見られますが何かものでしょうか。この一品は以前から気付いて居ることに数値をおとすることにしました。マハクワの学名については北村四郎先生が植物分類地理31巻P51に提示したMorus australis Briq var.maritima Kitamuraがあり、母種はサマクワで栽培品種はレモはオオン島での栽培品種。マグワとマハクワを区別する考え方であれば、従来のM. bombycis Koidz. var.maritima Koidz. を学名として採ることになります。なお屋根町吉山氏が分類地理13巻P42に相模の両本産としてM. bombycis Koidz. var. sagamensis Hottaについて説えて居りますが、文脈からはマグワの果実品種又は奇形状のものと思われます。

2. 湘南鶴岡山のフナバンブック

湘南鶴岡山はツクマとコクサの種であるコクサQuercus takatorensis Makinoの模式産地として有名な山で、フナバンブックはロードでの鉄の毛を持ったガキモコ科の種で神奈川内でも現在比較的稀に見ることを考えられます。かつて是倉田の開始コースにもあったように記憶していますが1975年6月20日に湘南鶴岡山（219m）へ行った折に駒沢一先生が見出されました。1958年版植物誌に湘南の産地は何に挙げていないので一筆。帰路、川沿いの湿地にオオバトリグサであったのを珍しい目で見ました。これも駒沢先生の発見でした。

3. 横浜市関区のウルグワレモコク

横浜・川崎地区の標本は県立横浜高校に集められ森茂治・勝野篤男氏を中心にその御努力で整理が進められていますが、3月20日にバクケの標本を同定の中にウルグワレモコクの変種である本品を見出しました。稀なものでありますが葉裏に毛の出る本変種は他地域でも見出される可能性があります。標本は高橋裕子氏の採品です。

4. 足柄上郡中井町に産するウシカヘの一部

1981年5月24日足柄上郡中井町井ノ口の牧場域で駒山泰一先生がウシカヘの花を発見、一見優を数えていたよう品種を見出しました。ウシカヘはユーラシア大陸の広域の複数種ですが、この変種を採って考へ5氏の中部ウルグワレモコク(Flora J II / S.901 -2)を見事をなされたえ、変種有ありを含む調査を行(4)に採れ、ウサカヘの標準変種と、この中井町の種類とならしもと見ることできます。それでは日本で有する変種については学名上何かと言えれば、この変種の変種に相当すると考えられます。Myosoton aquaticum Moench var. glabrum Peterm. で本品はヨーロッパではSeiten（種）とされていたものが地方で見られ、endforeachで表示されるもので、中井町のものは牧草に混って栽培したものではないかと考えられます。何れにしてユーラシア大陸の bridesでも同じ植物でも内容が異なるこのものはウシカヘの染色体数の例を引くまでもなく、当然のことでしょう。エキサイバニなど田植えを見ますと日本産と見られそうなります。

5. ウスガシロシとカタクリキマガタレリ

前者は田村道夫氏が北海道の植物誌第26巻第1号（1978）に掲載の101号に掲載された新種で丹沢・大山にも産するが判明して居り、氏の編著・日本植物界ノート中に記述があります。後者は寺尾博氏が植物分類地理30巻第1-3号（1979）に掲載したキマガタレリの新変種です。高尾山、箱根山、大山、丹沢山など奥多摩か見島半島、富士山周辺に産するようです。ここに紙面を借りて神奈川県に関連する新しい種類に注意を払われるよう諸氏にお願い申し上げます。なお最近発見した新種、日本の野生植物（平凡社刊）に美しい写真と共に説明があります。

6. 湘南鶴岡山産オオバトリグサ

本種に関しては故大谷丈先生が図説植物誌研究報告（自然科学）第3号（1958）に神浦寺（二ヶ所）に生産の産を報告されました。筆者は1981年3月29日に駒沢泰一先生にその所在を案内していただき1本が生産するのを実見いたしました。1982年1月2日に産出、湘南鶴岡山から望之子橋周辺で方角に植樹を重ねた本品を見ました。これが大谷氏報告する二ヶ所の内の一つをのほかは不明ですが、とにかくこの種がこの地域に広布しているこの実証であると思います。

（横浜・長谷川義人）

横浜南ブロック調査会の記録

実施日 1977年3月28日（日）AM 9時～
場所 永取市市民の森（団地囲いの谷窪中心）
指導者 高橋先生、村上先生、長谷川先生。
参加者 藤原克一、吉川アサ、松平友子、平井か
子他二名、中村真子、内藤美知子。
当日は、丁度ヤマクワラが満開で、紅葉の葉だけに
染まるピンクの花をかいげ、我々の日を楽しいにくれ
ました。谷窪はきがみなに羊飼が多く、中でもリョウメ
ンジダの群落は、素晴らしいものでした。その他ヤマト
リカブトやスバミリの群落も見られ、秋が楽しめます。
帰炉に長谷川氏が、イヌザクラとアワガタの確認を
なされました。採集は主に中村、長谷川氏が行い、
記録には内藤が取りました。

当日観察した主な植物

羊飼植物 オオバトリレコサ、スギナ、フユノマタフタバ、
オオハナラピラ、センマイ、フオモジ、ホランノグ
ラピラ、イノモトソウ、イワガタタチ、イナ、ヤツ
ゲソリ、ヤマヤブソクソ、リョウメンジダ、オオマワ
ラピラ、クマラピラ、オオタイチョウ、ヤマタイチョウ、
トウゴクウラ、ベニウラ、ミソウ、ホシガ、イヌワ
ラピラ、シケツナ、コモニチ、トラノオノラ、ミツガ
クワポノ

A5 イヌガヤ科 イヌガヤ。
横浜南ブロック合同調査の記録

横り空で寒く、しかも土曜日の午後ではということです。
あまり参加者がいないだろうと思って出かけてみたところ、意外に参加者が多いのでびっくり（19名）。植物の方は早秋のこともあり、それほど収穫はなかったが、それでもイワナダ（大場先生発見）、ヒメブラスカスとあさマサボダイなどで見つかり、やはり多くの方で観察することが必要だと痛感した。またイネを刈りとした跡の田園にオアカワキサの群落がみごとに広がっていた。

このコースは横浜南部地区でも一応開発がストップ

C 11 イクサ科の一イクサ、カムラサキ、コアザ
C 17 マノスズカサ科一カマノスズカ
C 26 タケ科一ツタケ、イイヘルファラ
C 27 ナデシコ科一ウグイハコベ、オランダミシタ
サ、ツメタクサ、ノミノツツジ、ノミノフスマ、ハコベ
C 33 キョウウグ科一アキカラマツ、イヌショウマ、
ウマノアシガタ、ケヤネノボタン、サラシナショウ
マ、センシソウ、タガラシ、ハンショウブル、ヒメ
ウズ、ヤマトクリブ
C 34 アケビ科一アケビ、ミツバアケビ
C 35 メギ科一メギ
C 37 モクレン科一サネサクラ
C 38 クスノキ科一アガラン、クロモジ、シロ
ダモ、タブノキ、ヤマバシカン
C 39 ケン科一ムサキケメン
C 41 アブラナ科一イズガラン、スカツタガボウ、
タネツケバナ、ナズナ
C 44 キユノタ科一アカショウマ、ウツギ、タマ
アジサイ、コサネレコノメソウ、ヤマアジサイ、ヤマ
ヘのノメソウ、ユキノシタ
C 47 パラ科--ニズマクラ、オオマザクラ、カマ
ツカ、ダイコンソウ、ツリバノバタ、ノイバラ、フ
ユイチゴ、ヘビイチゴ、モミジイチゴ、ヤブヘビイチ
ゴ、ヤマザクラ、ワレモコウ
C 48 メメネ科一ラスノエンウ、タズ、シロツメ
カサ
C 49 フウロソウ科一ダゲノソウ、ツク、シロツメ
カサ
C 50 カタバキ科一カタバキ
C 53 ミカン科一オカサギ、サンショウ、ミヤマシ
キサ
C 57 トウダイグサ科一タカトウダイ、ナットウダ
イ
C 64 ニシキギ科一マササ、マユミ
C 70 アワブ科一アワブ
C 79 サキバキ科一ツバキ、ヒサカキ
C 82 スミレ科一コンスミレ、タチツボスミレ、コタ
チツボスミレ
C 84 キブン科一キブン
C 85 シンチュウガ科一オニシバリ
C 86 グム科一ツシマグム
C 92 アカバナ科一ツシマアカバナ
C 96 ウゴサ科一キツツ、タラノキ、ハリギ、ヤッ
デ、
C 97 セリ科一フマノミツバ、シンウド、セリ、チ
ドメツサ、ツガタ、ミツバ、ヤブエンジン
C 98 ミズキ科一アオキ、ミズキ
D 5 ヤブウツギ科一カマタチバナ、ヤブウツギ
D 10 エゴノキ科一エゴノキ
D 11 モクサイ科一イボトカ
D 14 キョウナキトウ科一イタカザクラ
D 18 ムラサキ科一キュウリグサ、ホタルカザラ
D 20 シソ科一アカドウ、キランツカ、コバノタ
ツナミソウ、トウバナ、ヒメオドリコソウ、ホトケノ
ズ
D 21 ナス科一ダコ
D 34 イクスカラ科一ウグイスカクラ、ガマズミ、
スイカザラ、ニワトコ、ハコヘツギ、ヤブデマリ
D 35 オオナエシ科一フクノカノコソウ
D 36 ウリ科一カラスクリ
D 37 キユウ科一ツリガネンジ、ホタルブクロ、
ヤマホタルブクロ
D 38 キク科一ハハコサ、シラヤマギサ、シヨ
メツ、セイカタウダチソウ、ノコンギ、ハルショ
オン、ヨモギ、リュウノウギ、タイアザミ、オオジ
ンサリ、オニオグサ、カントウタンポ、セイヨクタ
ンポ、ノグサ

（内藤美知子）
された地区で、あまり人手が加わっていない。ちょうど紅葉がみごとに、スギ林の中にはイノデを始めとするシダ類の大群落もみられる。とくに春から夏にかけてやっとらしいコースである。

以下は、11月28日午後の2時間ほどの間に、村上と長谷川が観察、採取したもののみの記録である。他の日には記録されたものは今回は掲載していない。

日時 11月28日（土）
場所 横浜市戸塚区上郷町願上谷戸

した植物
アスカイノデ、イチチシダ、イヌスギイ、イヌフラ
ビ、イノデ、イワガネソウ、イワデシダ、オアイチシ
ダ、オオバノイモトソウ、カニクサ、ゲシジンシ
ダ、コモチシダ、シゲダ、スギナ、センマイ、トウ
ゴクシダ、トラノオシダ、ハリネワラビ、フモトシ
ダ、ベニシダ、ホシダ、ミシダ、ミツデラソウ、ヤ
プソテリア、ソウメンシダ、オオアカウキサ。

単葉植物
いね科——オヒシバ、ニワコリ、チョウセンガリ
ヤス、ノガリヤス、アキメニヒ、イヌイチヒ、ケイス
ビエ、コチレミサ、チラシダ、チマミサ、スカ
キビ、ハイスギ、アブラダンサ、オガルカワ、イオ
ゴマク、スギネ、チガヤ、ヒゲアブラダンサ、ア
ジ、アズマネサ、トダガマ。

かやつりぎさ科——アセガヤツリ、カヤツリガサ、
カワラスガナ、ヒメグサ、シラスガ、ナキリクサ、ヒ
ゴクサ、ヤママカンスギ、アブラカヤツリ、ホタルイ、
ヤマイ。

うきくさ科——オオアカウキサ。
つゆくさ科——ヤブミックガ。

いぐさ科——イ。
ゆり科——オオバジャコヒ、サルトリバ、ス
ルポ、ヤマラッキュコ。

やまのいも科——オニドコロ。

らん科——サイハラン。

離弁花植物
やなぎ科——ジャヤナギ。
かばのさ科——ハシギ。

ぶん科——アラカシ、コララ。

くわ科——イタビタイ、ヤマシゲ。

いくらざ科——オオカランシ、ミズカランシ、コア
カソ。

うまのすずくさ科——カンオバイ。

たて科——イタドリ、イヌタデ、ギンギン、シロバ
ナクラタデ、ハナタデ、ミズヒ、ミゾソバ。

あかざ科——シロザ。

ひゆ科——ヒガキイココネ。

なでしこ科——カワラナシコ、コハコベ、ウシヘ
コペ、ノミノソツギ。

きんぼう科——アキカラマツ、イヌショウマ、ケ
キフネボタン、サラシナショウマ、シロパサンハシ
ョウゲル、センニンソウ、ヒメツギ。

あけび科——アケビ、ミツバケアビ。

つづらふじ科——カミエビ。

くすのき科——クロモジ、シロダモ、タブノキ、ヤ

ブニッケイ。

けし科——ムラサキケマン。

あぶらな科——シネケバ。

ゆきのした科——アカショウマ、ウツギ、タマアシ
サイ、マルバツギ、サワアツサイ。

ばら科——オオフジハバラ、クサイチソ、シモンケ、
ダイコンソウ、ヘビイチゴ、ワレモコウ、モミジイチ
ゴ。

まゆ科——クズ、コマツナギ、トキリマ、ネムノ
キ、ノサダギ、ツジ、ススピトハギ。

ふるさと科——ガクソウコ。

みかん科——サンショウ、コフサギ。

うるし科——ヤマハゼ。

もものき科——イヌツゲ。

にしき科——マユミ。

かえで科——イロハカエデ。

ぶどう科——ビブレ。

おとぎ科——オトヨリソ？

すみれ科——タチツボモスレ。

きぶし科——ホシギ、ハチジョウギ。

ぐみ科——ツルギ。

うご科——ウド、キブダ、ハリギ。

せり科——ウオモンツバ、シンツウ、セリ、ノダケ、
ノチドメ、ミシマサイコ。

みずき科——オオキ、ミズキ。

合弁花植物
えごの科——エゴキソ。

もくせい科——イボノキ、オカイボ。

りんご科——リンゴ。

きょうらくとう科——チカカザラ。

がいかい科——ガイデ。

むらさき科——ホタルカガマ。

くまつさら科——ムラサキキユ、クサギ。

しぞ科——イストウバ、ウツボダ、キランク、
ヤマハッカ。

なす科——ワルナスビ。

つねのまご科——ケツネノコ。

はえどこう科——ダガハエハドクソ。

おおぼこ科——オオボコ。

すいかつわ科——コバノガマズミ、スイカズラ、ハ
コウツギ。

おみなえし科——フルカノコソウ。

うり科——アマチャツ、カラスギ。

ききょう科——ツリガネニンジン。

きく科——コオニタビロ、オニタビロ、コウゾ
ウツギ、ジンバリ、ムラサキヒガサ、キツネアザミ、タ
アイアザミ、ネオハアザミ、サワヒヨドリ、ヒヨドリパ
バ、アキノキリンソウ、シラヤマギ、セイタカワ
ダツギ、ユウガワ、ヨヨナ、ダイドロギ、ペニバ
パロギ、ヨモギ、リュウウロギ、アメリカ
センダングツ、タカサツロウ、ヤクシタ、コウヤボ
ウギ。

（長谷川義人、村上司郎）

県央地区合同調査の記録

-70-
調査コース  愛川町八管山→海底→塩川庵
調査日  1981年11月22日
記録  山口勇一、内藤美知子

糸苔植物
トクサ科——ユギノ。
ヒガシゴサラ科——トウゲシバ。
ハナワラビ科——フヨハナワラビ。
ゼンマイ科——ゼンマイ。
フササダ科——カニタス。
イノモトソウ科——ホランソウ、ワラビ、イノモトソウ、オオバノイノモトソウ、タチソウ。
オンダ科——イオダ、アスカイノダ、アイアスカイノダ、ヤマヤブソウツ、オオカナワラビ、オクリワラビ、タマワラビ、ベニシダ、イタシダ、オオイタシダ、ミソシダ、オオゲジシダ、ヘシゴシダ、ハリガネワラビ、ワラシダ、ヒメワラビ、ホシダ、ホソバケンダ、シケンダ、ベニノネゴザ、イヌワラビ。
チャシングサ科——トランオシダ。
ウラボシ科——ノキシノブ、マメブサ。

裸子植物
イチイ科——カヤ。
マツ科——アカマツ、モジ。
スギ科——スギ。
ヒノキ科——ヒノキ、サラハ。

被子植物[離弁花類]
カバノキ科——アカシデ、ヤマハンノキ、ヤシャブシ。
ナサ科——シラサ、アラサ、コナラ、クヌギ、クリ、ユダサイ。
ニレ科——ケヤキ、エノキ。
クサ科——クサ、ヤマダ、コウサ、カナダグサ。
イラクサ科——アオミズ、カラムシ、アオカラムシ、コアカソ、ヤブマモ。
ウマノスズクサ科——オオバウマノスズクサ、ウマノスズクサ、カナアオ。
タデ科——エゾノギシギ、イシミカワ、イヌダバ。
イタドリ。
ヒユ科——イネコズチ。
ヤマゴボウ科——ヨウシュヤマゴボウ。
キノボウダ科——ヘンショウダ、シロバナヘンショウダ。
ジョウノウ、センニンソウ、シュメイギサ、アキカラマツ、サラシショウマ、ニリンソウ。
アケヒメ科——ミツバアケヒメ、ゴヨウアケヒメ。
メギ科——メギ。
ツツラフサ科——アオツツラフサ。
モクレン科——ホウノキ、サネガサラ、シキミ。
クスノキ科——ヤブツネキ、タブノキ、クロモジ。
アブラチャ、ダンコンウバパイ。
ケン科——タケニグサ。
ユキノシタ科——ウツギ、マルバウツギ、コアシサイ、イワガラミ、ユキノシタ、アカショウマ。
バナ科——コゴノバナ、ヘイイチゴ、ニガイチゴ、タバノバナ、モニイチゴ、タブノイチゴ、ウレモコウ、キンミズヒキ、ノイバラ、ヤマザクラ、ウフミズサカト。
ラ、フユイチゴ。

マメ科——ネムノキ、キハギ、マルバハギ、ネコハギ、フジカンソウ、ヌスピトハギ、クズ、コマツナギ、フジ、ムラサキツメクサ、シロツメクサ、ヤマハギ、タングリマメ、ヤブマメ。
カタバミ科——カタバミ。
ミカン科——サンショウ、イチサンショウ。
トウダイグサ科——アカメガサ。
ウリシ科——ウリシ、ヌルデ。
モチノキ科——モチノキ。
ニシキイ科——シルウメモドキ、コマツミ、マユミ、ツリバナ。
ミツバツギ科——ミツバツギ、ゴンダイ。
カエデ科——クリカエデ、オオモミジ、イタカエデ。
アワブキ科——アワブキ。
クロウメモドキ科——クマナギ。
プドウ科——エピズル、ノブプドウ、ツサ、ヤブラカラ。
ツバキ科——チャノキ、ヤブツバキ、ヒサカキ。
オトリグサ科——オトリグサ。
キブシ科——キブシ。
グミ科——ツルグミ。
ウコギ科——タラノキ、ウド、キツダ、ヤツデ、ハリギリ。
セリ科——ミツバ、セントウソウ、カノツメソウ、ヤマセリ、ホタルサイコ。
ミズキ科——アオキ、ハナイカダ、ミズキ、ヤマボウシ。

【合弁花類】
ツフジ科——ヤマツツジ。
ヤブコウジ科——ヤブコウジ、マンリョウ。
サクラノ科——オカトラノ。
カキノキ科——カキノキ。
エゴノキ科——エゴノキ。
モクセイ科——イボタノキ。
リンドウ科——ツルリンドウ。
キユウナクド科——テイカケシア。
クマツブラ科——ムラサキケシア、ヤブムラサキ。
シソ科——シソ、オトリソウ、オトリコウ、アキノタマソウ、キバナアキギリ、シモシバラ、フトボガナタコシ。
ゴマノハダガ科——オオイヌフグリ。
オオバコ、ヘラオオバコ。
アカネ科——ヘタコウサラ、ヤエムラ。
スイカザラ科——ニフタコ、ソクツ、ガマズミ、ツクベネツギ、ハコネツギ、コバノガマズミ、ニシキギギ。

キユウギギ。
オミエニエ科——オトエギ。
クサ科——カラスクリ、フナチャズル。
キク科——コヤブタコ、センボンヤ、コウヤボウサ、サギワバハグ、オオブタクサ、ヒヨドリバナ、アキノキリソウ、オオアワダツウソウ、ヨメナ、オオアレチガキ、ノコンギク、ヤブネサラ、リュウノギオ、コメナモモ、アメリカセンダンサ、センデン
植物誌調査会の総会

４月24日、県立博物館で植物誌調査会の総会を行いました。出席者は39名でした。

会計と会務報告のあと、植物誌刊行までの計画について話し合われました。またスライドを用いて、コンピューターを用いたまとめ方や最近神奈川県に見られる話題の植物について大場氏より発表がありました。終了後は分科会の分科会も行われ今後の調査計画を話し合って4時頃散会しました。

植物誌調査会名簿の追加

県央地区

鎌倉・三浦地区

横浜・川崎地区

植物誌刊行までの計画（案）

1981年 現地調査
1982年 ブロック別チェックリスト完成
        空白メッシュ調査
        仮目録・仮分布図印刷
1983年 補足調査
        資助執筆依頼
1984年 編集
1985年 = 刊行=

大変発行が遅れましたがフロラカナガワ12号をおとどけします。引き続き13号を編集しています。新産地短報、研究短報、植物誌調査に関する文献紹介、植物誌調査に関するご意見など、お気軽にお投稿下さい。口座番号が次のように変わりました。

横浜 3-10195
神奈川県植物誌調査会